

はじめに

社会福祉法人 日本介助犬協会は、平成 16 年に社会福祉法人として設立、平成 21 年に「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘」を愛知県長久手市に開所、平成 24 年には長久手市と協定を結び、本部事務所を横浜市に移設し、これまで身体障がい者の自立と社会参加を支える活動に取り組んで参りました。

平成 26 年度は、介助犬貸与事業では、愛知県の 1 組の介助犬使用者の誕生に留まり、介助犬希望者は増加傾向にあるなかで、候補犬の確保につき難渋しております。研修生制度は、第 9 期研修生 3 名含め開始以来 27 名が修了し、その多くが協会職員として活躍しております。手狭であったシンシアの丘駐車場の用地取得にも取り組みました。また、新たな取り組みとして聖マリアンナ医科大学病院での動物介在療法の導入をお手伝いしました。さらに、事務局長の高柳友子が日本身体障害者補助犬学会第 7 回学術大会の大会長を務め、中部国際空港セントレアにて「東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて」を実施し、協会として共催をしました。平成 27 年 1 月には高柳が「東京弁護士会人権賞」を授与しました。この受賞は当会にとっても社会的評価をいただく名誉あるものです。

協会を取り巻く環境と取り組むべき課題は山積しておりますが、「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」をモットーに、柔軟かつ精力的に取り組んで参りますので、これからも皆様のご指導とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 大島 慶久

1. 介助犬訓練事業

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、1組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

	介助犬使用者				介助犬		合同訓練期間 (実訓練日数)	認定日 (指定法人)
	都道府 県名	性別	年齢	障がい名	犬名	性別 (犬種)		
新規	愛知	男	52歳	筋ジスト ロフィー	タンタン	雄 (LR)	12月11日～3月12日 (日間) *実指導日数：66日間	平成27年3月17日 (名古屋リハ)

*犬種：LRはラブラドル・レトリバー

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

候補犬35頭（平成26年度分5頭、平成27年度分30頭）を確保し、訓練を行った。平成26年度に介助犬等になったのは20%であった。（昨年度24%）

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

研修生がパピーホーム体験をすることと合わせ、数頭のパピーに対して早期訓練を開始した。パピーホームボランティアに対しては、訪問指導と胎ごとのグループレッスンを通しての飼育指導を行った。

(3) 繁殖およびパピーの導入

① 繁殖およびパピーの導入

自家繁殖により4回の出産を行い、24頭のパピーを確保した。

関西盲導犬協会よりパピー4頭の導入を行った。

② クイーンズランド盲導犬協会からの犬の導入

1頭のパピーを導入した。

③ 成犬導入のための海外育成事業者訪問

情報収集のためアシスタンス・ドッグス・オブ・ハワイと成犬導入の交渉のためにクイーンズランド盲導犬協会を訪問した。成犬導入には至っていないが、パピー6頭を寄付していただけることとなった。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者22名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。特に新規使用者に対しては1回/月程度の継続指導を行い、その他の使用者に対しても障がいの進行によるニーズの変化など、必要に応じた再訓練を行った。（訪問指導の合計36回）

その他電話・メール等での継続指導を行っている。

(電話：123回、メール：93回)

② 利用者交流会

利用者同士の情報交換とハンドリング技術の向上を目的とした「利用者の集い」を10月25日(土)～26日(日)に訓練センターにて開催した。参加ペアは10組であった。

(5) 就労支援

①就労を目指す利用者2名に対し、支援センター等の関係各所と連携し、一般就職者1名、職業開発校入校1名の成果を得た。

②中央共同募金会の助成事業として、東海4県のハローワーク及び障害者就業・生活支援センター等477機関・事業所を対象に障害者の社会参加・就労支援のためのアンケート調査を行った。改めて身体障害者補助犬法や介助犬使用者に対する職場の受入れ及び就労支援の必要性に理解を深めていただいた。

2. 訓練士養成

(1) 訓練担当者の訓練技術向上

職場内研修及びOJTにより新人職員への訓練指導を行った。

(2) 飼育管理における技術向上

職場内研修及びOJTにより新人職員への指導を行った。また飼育管理担当者に一部候補犬の訓練を担当させ、犬を扱う技術向上に努めた。

(3) 新規合同訓練担当者1名の養成

体験会や体験入所では実務経験を積めたが、合同訓練は未実施となった。

(4) 第9期研修生の養成

3名が入学し、全員卒業した。飼育管理、犬の訓練技術、啓発活動などを学び、その他リハ専門職による講義受講、盲導犬協会での犬舎管理の実習、国立障害者リハビリテーションセンターが主催する介助犬訓練者研修会での研修を行った。1年間の過程を修了後、1名が協会職員となっている。

(5) 研究会・研修会への参加

①第6回兵庫補助犬研究会にて職員1名が発表を行った。日本身体障害者補助犬学会第7回学術大会を共催、事務局長が大会長を務め、職員6名が発表を行った。

②繁殖業務研修のため、北海道盲導犬協会へ職員を派遣した。

③国立障害者リハビリテーションセンター主催の「介助犬・聴導犬訓練者研修会」研修生3名が参加した。

3. 相談・指導助言事業

(1) 介助犬希望者への相談

① 介助犬体験会・相談会

介助犬に関心のある障がい者を対象に体験会を実施した。(関東2回、センター2回、大阪1回)(全国労働者共済生活協同組合連合会、中央共同募金会による助成事業)

② 体験入所

介助犬取得に関心のある障がい者を対象に体験入所を実施した。(実施回数4回)(中央共同募金会による助成事業)

名称	実施日	参加者数	開催場所
体験会	4月16日	6名	横浜ラポール
	6月15日	7名	センター
	10月11日	9名	横浜ラポール
	11月9日	5名	大阪保健医療大学
	3月15日	5名	センター
体験入所	4月12日～13日	1名	センター
	10月4日～5日	2名	センター
	12月13日～14日	1名	センター
	3月15日～16日	2名	センター

4. 補助犬関係団体協力事業

(1) 補助犬団体との連携強化

北海道盲導犬協会での訓練犬評価への参加及び繁殖業務のための訪問、関西盲導犬協会からのパピー導入、ライトハウスからの成犬導入、九州盲導犬協会からの成犬導入を行った。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

①ADI(Assistance Dog International)カンファレンスへ職員2名が出席し、諸外国の補助犬団体と情報交換を行った。アシスタンス・ドッグス・オブ・ハワイへ職員2名が訪問、クイーンズランド盲導犬協会へ職員計4名が2度訪問し、情報交換及びパピー導入を行っている。

②Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)と犬の導入についての情報交換を行った。25年度導入した成犬1頭が聖マリアンナ医科大学病院でのAAT活動を開始した。

5. 介助犬育成調査研究事業

(1) 日本身体障害者補助犬学会への参加

学会へ団体会員として加盟し、一般演題発表を行った。

日本身体障害者補助犬学会 第7回学術大会

【一般演題】

介助犬フェスタの広がりと今後の展望・課題	広報部	古屋	道子
合同訓練犬の飛行機搭乗に関する事例報告	訓練部	櫻井	友衣
ほじょ犬の日制定後の動きとその効果について	広報部	山本	香織
キャリアチェンジ犬引き取りボランティア獲得方法の検討	広報部	礒貝	歩美
肢体不自由児特別支援学校教員に対する介助犬に関する調査報告	訓練部	田辺	冬華
グルーミング道具の提案	広報部	後藤	優花

(2) リハ専門職等との補助具の開発

リハ専門職、義肢装具企業と連携し、使用者が介助犬と暮らすために必要な車いすに取り付けるリードフックや飼育管理用具の作成をした。

(3) 肢体不自由者のニーズ調査

全国の福祉機器展にてアンケート調査を行った。

(中央共同募金会による助成事業)

実施日	名称	開催場所	アンケート数
4月17日 ～19日	第20回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展 バリアフリー2014	インテックス大阪	13件
5月23日 ～25日	第17回国際福祉健康産業展 ウェルフェア2014	ポートメッセ名古屋	11件
7月11日 ～12日	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2014	パシフィコ横浜	6件
10月1日 ～3日	第41回国際福祉機器展	東京ビッグサイト	14件

(4) データベースの導入

訓練犬個体情報、訓練記録(内容・時間等)、繁殖犬血統図等の記録を蓄積し、それらのデータを集約・共有するためにデータベースを導入し運用を開始した。

(洲崎福祉財団による助成事業)

6. 社会及び地域貢献活動

(1) 訓練犬、PR犬を使った病院等(聖マリアンナ医科大学病院)での訪問活動の実施

聖マリアンナ医科大学病院でのPR犬を連れて訪問活動の実施、及び27年度の勤務犬貸与に向けてのハンドラー養成を行った。

(2) 災害時の障がい者と犬の受け入れについての体制作りの検討

職員 2 名が災害時対策に関するセミナーを受講した。情報収集し検討した結果、まず当会の災害時の対策方法の確立を目指すこととした。

センターで開催したオープンハウスにて地域の方々に向けた災害時のペットの避難に関する情報提供を行った。

7. 普及啓発事業

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 介助犬総合訓練センター開所 5 周年記念行事「介助犬フェスタ 2014」を開催した。

(ア) 身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、愛・地球博記念公園・地球市民交流センターにて開催した。6,000 名を超える参加があった。

(イ) 認定報告会を開催し、個人・法人会員、支援・協力企業、ボランティアに対して、2 組の介助犬ペアが誕生したことを報告した。

② 地域に根ざした講演会を開催した。

実施日	名称	回数	開催場所
毎月第 2 土曜日 (5・3 月を除く)	一般見学会	10	センター
7 月 31 日	子供向け見学会	1	センター
8 月 2 日	介助犬教室	1	ダッドウェイ
8 月 23 日	夏休み介助犬イベント	1	ららぽーと横浜
3 月 1 日	オープンハウス	1	センター

③ はたらくワンワンランド (J A 共済連主催)

44 件を実施した。

④ リハビリテーション専門職向けセミナーの開催

9 月 21 日 (日) に中部国際空港セントレアにて補助犬学会内で開催し、33 名の参加があった。(中央共同募金会による助成事業)

⑤ イベント・講演依頼を受け実施した。

イベント・講演会 …… センター：131 件 本部：73 件

訓練センター視察 …… 73 件

職場体験学習の受け入れを 9 校 21 名に対し行った。

(2) デモンストレーター養成

啓発活動に特化したボランティア養成として、「介助犬デモンストレーター講座 (初級)」を実施した。(シンシア基金による助成事業)

・開催回数：センター 1 講座 (3 回) 本部 1 講座 (3 回)

・受講者数：センター 12 名 本部 5 名

初級講座の受講者を対象に、定期的に「介助犬デモンストレーター中級講座」を実施した。現在デモンストレーションのMCとしてセンター7名、本部5名が活躍している。

また、外部講師を招聘しデモンストレーターMCセミナーを3月21日（土）に開催した。デモンストレーター講座受講者の内11名が参加した。

(3) 普及啓発街頭募金活動

① 街頭募金啓発活動を行った

本部：21回 センター：12回 募金総額：2,715,336円

② 日本盲導犬協会との合同募金活動を5回、聴導犬普及協会との3団体合同での募金活動を1回行った。

③ 小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の街頭活動についても協力参加した。

(4) 募金箱設置

新規246個の設置を行い、全設置個数は2,174個となった。また、募金箱設置店への募金回収やリーフレット補充を行った。

(5) PR犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加するPR犬の作業力維持、並びに広報部職員の技術向上のため、訓練部と連携しPR犬4頭の育成・訓練を行った。

また訓練部とも連携し、情報共有・技術向上ために定期的にPR犬ミーティングを実施した。（センター：8月～、本部：1月～実施）

(6) ボランティアの確保

年4回の交流会を開催しボランティアの方々との友好を深めた。

センター：4月26日（土）、12月26日（金）

本部：9月28日（日）、3月15日（日）

(7) 賛助会員の新規入会促進・管理と継続支援者の確保

個人会員：1,440件 法人会員：104件

法人会員へ継続的な支援のお願いのため訪問に努めた。法人会員証を作成し93団体にお渡しした。

(8) 『ほじょ犬の日』登録

『ほじょ犬の日』5月22日（木）普及啓発イベント・講演会において積極的にPR活動を行った。

日本記念日協会に5月22日を「ほじょ犬の日」として登録申請し登録された。

8. 広報活動

(1) マスコミ対応

以下のように取材を受けた。

◎新聞掲載 83件 ◎テレビ放送 14件

◎ラジオ放送 17件 ◎雑誌・広報紙掲載 47件 【合計 161件】

(2) 広報物の作成

リーフレットの増刷（90,000部）やCSR冊子を改訂し増刷（40,000部）するなど広報物を充実させ広く配布した。また、平成26年度のあゆみ（新聞記事掲載集）を作成した。

(3) 会報・HPの制作

会報作成においては編集委員会で企画提案を実施した。また、HPではトップページの動画の更新や各ページの改良を重ねた。

(4) ツイッター・フェイスブック等の活用

更新を頻繁に行いフォロワーや「いいね」数を増やし介助犬の啓発を行った。
ツイッター：フォロワー数 …1,296 フェイスブック：「いいね」数 …3,636
また、新たな取り組みとしてソーシャルグッド（社会貢献活動を支援・促進する取組み）に参加し広く支援をいただける展開を行った。

9. 補助・助成

(1) 介助犬貸与に関する補助

平成26年度認定者在住の愛知県より、介助犬貸与に対して150万円の助成が給付される予定。

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として103,000円が支給される予定。

長久手市より、介助犬広報啓発事業の補助として、300,000円が支給された。

(3) 助成団体事業

名称	金額	事業内容
全国生活協同組合連合会 ・社会福祉法人 中央共同募金会(200万円) ・全国労働者共済生活協同組合連合会(100万円)	300万円	障がい者の社会参加および就労支援のための介助犬普及啓発事業
公益財団法人 洲崎福祉財団	200万円	身体障害者の自立を支援する介助犬の管理システム作成・導入
毎日新聞大阪社会事業団シンシア基金	50万円	介助犬デモンストレーター養成ボランティア講座
在日米国商工会議所	24万円	オーストラリア補助犬育成団体とのネットワーク構築のための研修費

(4) 団体・企業等(使途指定寄付)

名称	金額	内容
名古屋東山ロータリークラブ	747,232円	クイーンズランド盲導犬協会からパピー4頭を導入費

名古屋大須ロータリークラブ	300,000 円	介助犬啓発ポスター・ステッカー・缶バッジ・ポロシャツの制作費と地元小学校での講演活動費
デンソーはーとふる基金	647,060 円	介助犬育成に必要な物品(ドッグベッド、犬用サプリメント、消臭カーテン)の購入

10. 管理・運営

(1) 理事会・評議員会(年3回)の開催状況

定款に定める理事会・評議員会を下記の通り開催し、定款施行細則に定める議決事項等につき適正な運営に努めた。

平成 26 年 5 月 26 日 第 1 回評議員会・理事会

平成 26 年 10 月 30 日 第 2 回評議員会・理事会

平成 27 年 2 月 26 日 第 3 回評議員会・理事会

(2) 事業推進会議(月次)の開催

協会活動の円滑な遂行を図るため、理事長に参加いただき、組織規程(第5条)に定める事業推進会議を毎月開催した。

(3) 職員体制の状況(平成 27 年 3 月 31 日現在)

職員 31 名(正職員 21 名、契約職員 7 名、パート 3 名)

(4) 職員会議・研修会の開催

① 組織規程に定める全体会議を半期単位で開催した。

今後の協会を担う主任・副主任研修会を開催し人材育成に取り組んだ。

② 職員の防災意識の向上と管理体制強化のため、防災訓練に取り組んだ。

(5) 社会福祉法人新会計基準への取組対応

新社会福祉法人会計基準への経理体制を整えるため、津田明人税理士事務所の指導のもと、経理規程および経理規程細則を変更し取り組んだ。

(6) 中小企業退職金共済制度(中退共)への加入

職員の労働環境整備のため、中小企業退職金共済法に基づいた中退共制度に加入した。

(7) 苦情解決への取組み

苦情解決の仕組みについて第三者委員を設置し、HP・施設内に苦情解決責任者(事務局長・センター長)・苦情受付担当者(訓練部長・訓練部主任)の公表周知に取り組んだ。